

# つるが 敦賀港港湾計画（改訂）

## 1. 概要

### 【現況】

敦賀港は、日本海沿岸部のほぼ中央、敦賀湾の奥部に位置する天然の良港で、福井県嶺南地域の中心都市である敦賀市を控え、古くから我が国と対岸諸国を結ぶ中継地として、また、北海道をはじめとする国内各地を結ぶ交易拠点として栄えてきた。

昭和 26 年には重要港湾の指定を受け、背後地域に立地する鉱工業の主要原燃料となる石炭、林産品等の輸移入基地として栄えてきた。昭和 45 年には小樽港との間（現在は苫小牧港との間）に定期フェリーが就航し、京阪神・中京地区と北海道を結ぶフェリー基地として発展した。平成 2 年には外貿コンテナ貨物の取扱いが開始され、平成 14 年には苫小牧港との間に RORO 船定期航路が就航するなど、物流拠点としての重要性が高まってきている。

### 【計画改訂の背景】

敦賀港の背後圏を発着地とするアジア向け外貿コンテナ貨物については、敦賀港が持つ地理的優位性をより活かして敦賀港の利用が今後とも進むと見込まれる。内貿に目を向けると、太平洋側の航路からの転換を含め、敦賀港を介した京阪神・中京地区と北海道との間に高い物流需要がある。

このような背景のもと、外貿コンテナ貨物、フェリー貨物、RORO 船貨物の取扱量が増加しており、ふ頭用地が慢性的に不足してきている。また、船舶の大型化に対応した岸壁の整備も急がれているところである。さらに、冬期においては波浪により荷役障害が生じており、定期航路の定時性と荷役の安全性を確保する観点からも、なお一層の静穏度の向上が強く望まれている。

一方で、これまで中心であった物流・産業等の機能の拡充と高度化に加え、国際交流機能や、みなと資産を活用した賑わい空間の創造などが求められている。さらに、敦賀港には国指定の名勝である気比の松原があるなど、自然豊かな環境が残されていることから、これらを維持、保全していくことも課題である。

また、海上人命安全条約への対応、災害、海難事故等への迅速な対応のため、港内の保安機能の集約・強化が求められている。併せて、船舶航行安全の面から公共水域のプレジャーボート等の適正な保管、秩序ある水域の利用を推進することも重要である。

このような社会情勢や港湾に対する要請に対処し、国内外との物流需要の変化に対応する港湾機能の強化と、国際交流も含めたみなとの賑わい空間の形成を視野に入れながら、おおむね平成 27 年を目標年次とし、港湾計画を改訂するものである。

## 2. 港湾計画の主な方針

### (1) 海外への玄関口としての国際港づくり

大水深岸壁および所要のふ頭用地を持ちコンテナも取り扱う多目的国際ターミナルを計画し、地理的優位性を活かした対岸諸国との海上物流ニーズに応え、福井県のみならず、広く背後圏の貨物を取り扱う。

### (2) 北海道との物流を主とした国内海上輸送機能を備えた拠点港づくり

国内定期航路の高い需要に応えるため、所要のふ頭用地や静穏な港内水域の確保等による、安く、早く、安全で信頼性の高い港湾サービスを提供する。

### (3) 歴史のみなと資産等を活用した観光・景観に資する“みなとまちづくり”

赤レンガ倉庫をはじめとする歴史のみなと資産や港湾緑地、水産関連施設等を活用することにより、また、隣接する松原海岸等との連携により、港内の賑わい空間を創出する。さらに、外貿フェリーふ頭を計画し、東アジアとの交流を促進する。

### (4) 災害時の重大事態に対応した安全で安心できる暮らしを支えるみなとづくり

災害・事故時の即応体制を構築するとともに、巡視艇等官公庁船用係留施設を計画し、また港湾保安対策の充実による危機管理への対応を図る。さらに小型船を適切に収容するため、小型船収容エリアの確保を図る。

港湾管理者連絡先：福井県土木部港湾空港課  
西岡、佐々木 (TEL 0776-20-0487 FAX 0776-20-0660)

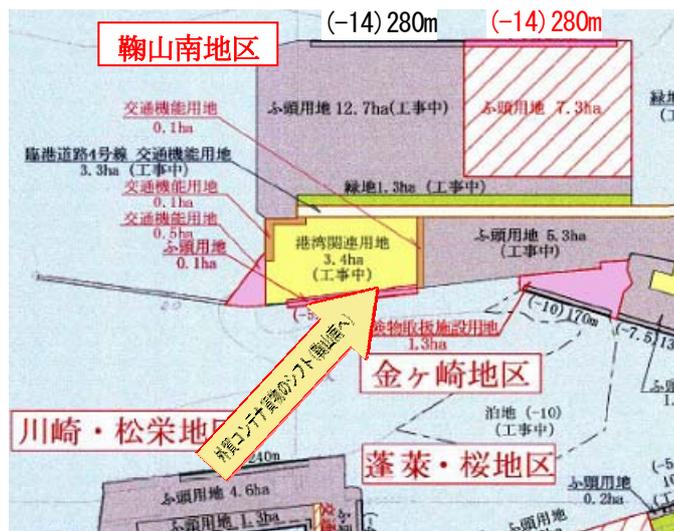
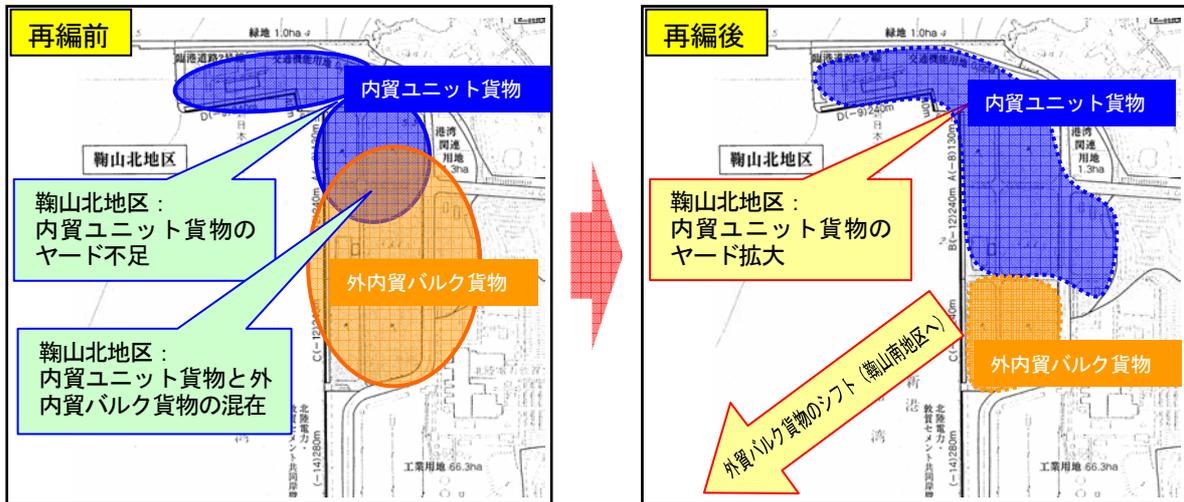


#### 4. 主な計画内容

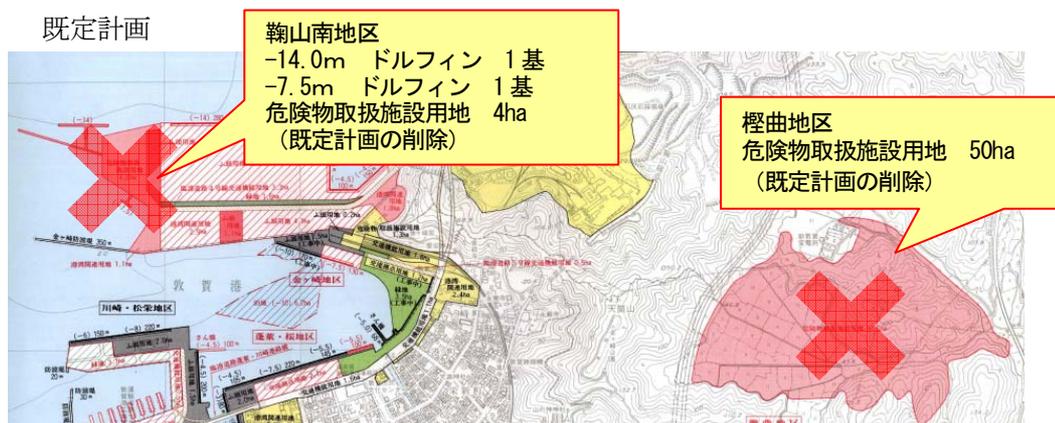
##### 【国際・国内物流拠点の強化】

公共ふ頭の集約配置等の再編を図り、効率的荷役活動および空間利用を行う。

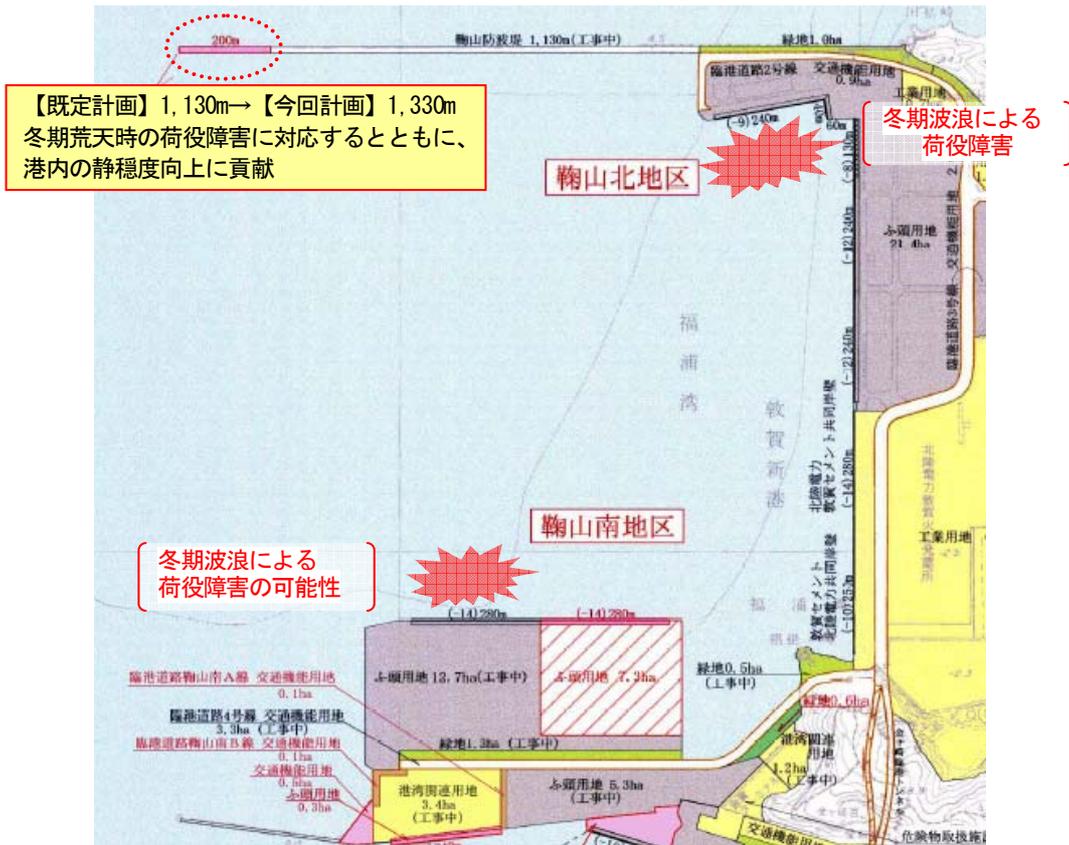
- 既定計画である<sup>まりやまみなみ</sup> 鞠山南地区のふ頭用地の整備を進め、外貿の大型船対応貨物およびコンテナ貨物については鞠山南地区にシフトする。また、貨物のシフトに伴い、鞠山北地区ではフェリーおよびRORO船貨物（内貿ユニット貨物）対応のふ頭用地の拡充を図る。



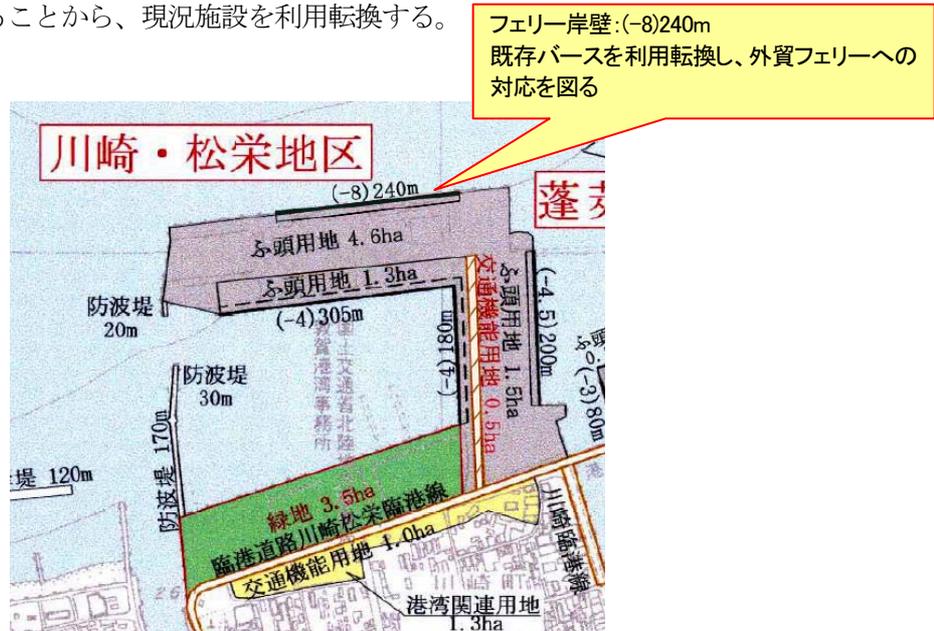
- 都市ガス需要の見直しにより、既定計画の鞠山南地区および<sup>かしまがり</sup> 檜曲地区の危険物取扱施設計画を削除する。



- 所要の静穏度を確保するため、鞍山北地区における防波堤計画を延伸する。

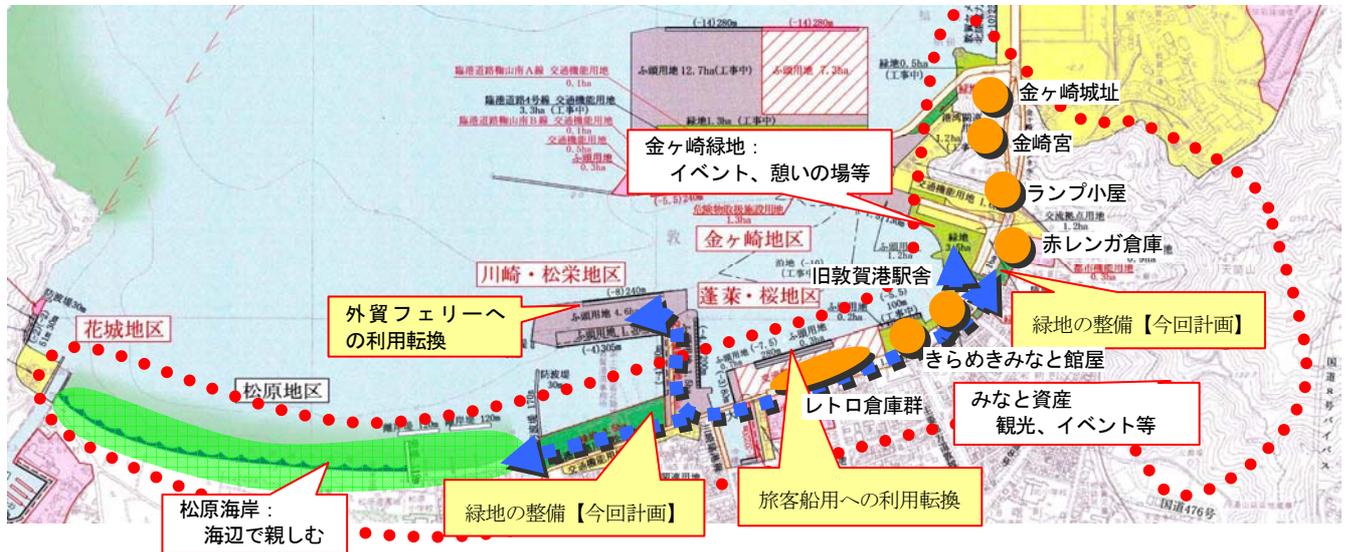


- 観光の国際化に対応するとともに、中部、関東圏域の貨物の取扱いを見込んだ外貨フェリー需要の対応を図ることから、現況施設を利用転換する。



## 【歴史のみなと資産等を活用した港湾空間の形成】

みなと資産をお互いに連携・有効活用し、かつ中心市街地の活性化を目指した交流空間の形成を蓬萊・桜地区を中心に推進する。また周辺地域と一体となった文化的で歴史的な薫りの漂う快適で潤いのある景観形成を図る。



## 【安全で安心できる暮らしを支えるみなとづくり】

震災時における緊急物資および避難者の海上輸送基地として機能できるよう、耐震強化岸壁の整備を進めるとともに、巡視艇等官公庁船用係留施設を計画し、災害時等の即応体制を構築する。

また、敦賀港周辺にはプレジャーボート、作業船、漁船等の多くの小型船が点在しており、港内の円滑な船舶航行や海上交通の安全を確保するため、港内小型船の集約・再配置を行う。

